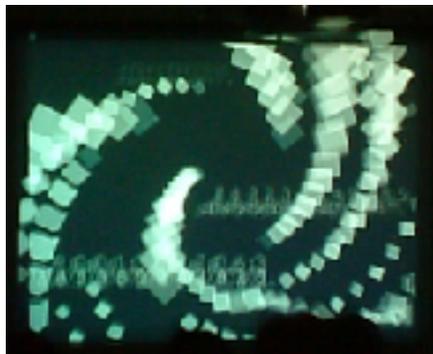


10 YEARS AFTER IFI 世界インテリアデザイン会議から10年

2004年7月16日(金) 17:30~21:30 トライデントデザイン専門学校 C館2F

Session1 / 育つということ



東郷氏
インスタレーション

当時の作品

中に入ると風景が変わり、日本的な情緒が感じられるようにしている。作業を進めるうちにさまざまなものが見えるようになった。

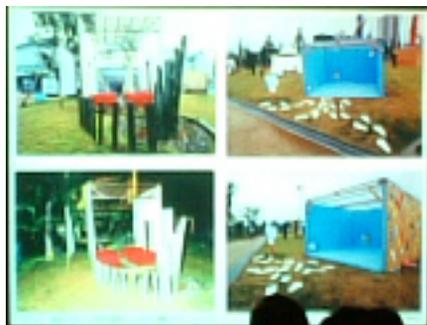
学年末課題

テーマは「風を感じながら酒を飲む」。今でも風と人との関係が季になっている。後にこのキーワードは匂いという言葉に変化する。'95の授業課題「やすらぎ」というテーマで空間を考える。

現在進行中の作品紹介。

加藤先生：

IFI '95がどういう会議であったか宇賀先生とトライデントの佐々木先生ご説明を。



宇賀先生：

10年前のことを鮮明に思い出します。'85年にインダストリアルデザイン博があり、海外の方が4千人も訪れ盛大だった。その後、インテリアデザイン会議がアジアで初めて開催されました。フランスのウルガリ市と名古屋市と接の末、一票差で名古屋市が勝ちました。名古屋市はデザイン都市宣言をし、世界の三大デザイン会議のひとつを日本で最初にできました。3億円の資金を集めるのに苦労しました。参加費は通し5日間で5万円もしました。準備に2年を費やしまし学生が社会に出るためのプロセスとして学校があります。一連の流れの中で、学生時代は非常に重要な時間だと思います。但し、IFI '95という花火をあげた宴の後が、なかなかつながりがなく不満足。地味なもの作りの町だった名古屋は田舎でした。（東京は消費 大阪は商売の街）そんな名古屋もきれいな街になりました。過去があって現在があり未来がある。今後もこの流れをつなぐ姿勢を大切にしてほしい。

佐々木先生：

予算もあまりなく学生だけで何ができるか？と役所の人に見られたこともあり発奮して気合で学生にパワーを引き出しました。やらされているという感が、学生の中にも最初はあり、フォーラム、インスタレーションもよく知らない中で形にするために努力しました。期日が近づくにつれ意見や知恵も出てきて、学生のパワーはすごいと思いました。また、県内の学生が入り混じって議論をし、何かを作るプロセスの中で、トライデントにこだわらないさまざまな考えを知ることができました。たくさんの人に支えてもらいました。ひとつの目標に向かい、スタッフの方も大勢手伝ってくれましたし、学生も協賛企業を募りました。人とのお付き合いがそのときの出会いから生まれています。そのような勉強の場を与えられたことに感謝します。

加藤先生 学生イベントの背景にはそれを支える大人の影があります。

伊藤氏

1 インスタレーション

学生時代から考えてやりつづけてきたことを紹介します。フィーリング（五感）で感じることをどのように表現したらよいか？インスタレーションアートについて、言葉を知ることからはじめました。世界中から来るデザイナーのために日本的なものを表現しました。スケールは茶室の大きさを墨汁を使って匂いや明かりを表現しました。母胎への回帰をテーマにしました。大工さんにも手伝ってもらったり、常滑の粘土を使用したりもしました。